

2382



帝國政府聲明

昭和十八年十月二十日  
大本營政府連絡會議了済案

帝國政府ハ本年三十日中華民國國民政府トノ間ニ「日本國中華民國間同盟條約」ヲ締結セリ。右同盟條約締結ノ結果「日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約」及其ノ附屬文書ハ其ノ效力ヲ失フト共ニ日華間ノ條約關係ハ茲ニ劃期的發展ヲ見ルニ至レリ。

茲ニ帝國政府ハ本年一月九日聲明ヲ以テ大東亞戰爭發生後ノ新事態ニ即應スル帝國ノ對華方針ニ關シ所信ヲ闡明スル所アリタリ。

爾來帝國ハ右聲明ニ於テ言明セル所ヲ着々如實ニ實行ニ移シ以テ中國ノ自主獨立ト國民政府ノ政治力發揮トヲ根基トスル新中國ノ速ナル建

IMT 458

454

2382

設テ極力支援シ來リ國民政府亦之ニ呼應シテ自強ノ途ヲ講シ戰爭協力ヲ強化シ日華新關係ハ順調ナル發展ヲ見ルニ至レリ。

惟フニ大東亞戰爭ノ發生ヲ劃シテ大東亞ノ形勢ハ激變スルニ至レリ。

即チ本戰爭發生前ニ於テハ大東亞ニ於テ米英ノ關係甚シク帝國ハ日華間ノ條約關係ヲ律スルニ當リテモ米英關係ノ事實ヲ無視スルヲ得サル事情ニ置カレタリ。然ルニ大東亞戰爭發生後ニ於テハ大東亞ヨリ米英ノ勢力一掃セラレ國民政府亦米英ニ對シ宣戰スルアリ日華兩國ハ茲ニ過去一切ノ行掛リニ拘泥スルコトナク善隣トシテ本然ノ姿ニ立還リ相繼ヘテ大東亞ノ安定ヲ確保シ其ノ復興與隆ヲ圖ルヘキ兩國共同ノ使命ヲ達成セシカ爲其ノ條約關係ニ付テモ新事態ニ即應スル如ク之ヲ調整

IMT 458

455

463

462

スルヲ適當ト認ムルニ至レリ。是レ即チ今次新條約ノ締結ヲ見ルニ至  
レル所以ナリ。

帝國ハ既ニ滿洲國、「タイ」國、「ビルマ」國及「フィリピン」國ト  
道義ヲ基調トスル緊密ナル協力關係ヲ確立シ今又中華民國トノ間ニ兩  
國提携ノ新ナル基礎ヲ確立スルニ至ル。斯クテ大東亞ニ於テ各國ノ共  
存共榮ヲ確保スヘキ新秩序ハ着々トシテ建設セラレツツアリ。

帝國政府ハ日華新條約ノ根本精神ニ則ル兩國關係ノ劃期的發展ヲ期待  
スルト共ニ中華民國ノ自主獨立ノ完成ニ對シテハ今後モ有ラユル支  
援ヲ惜マサルモノニシテ兩國相携ヘテ大東亞戰爭完遂、大東亞新秩序  
建設ニ邁進センコトヲ期シ茲ニ帝國政府ノ所信ヲ中外ニ聲明ス。

東條内閣總理大臣談話

本日、日華兩國間ニ、「日本國中華民國間同盟條約」ガ締結セラレ、  
劃期的日華新關係ノ基礎ガ確立セラレタルコトハ、日華兩國ニトツテ  
眞ニ慶賀スベキコトデアルト共ニ、大東亞ノ建設ニ更ニ一步ヲ進ムル  
モノトシテ意義深キモノガナル。

大東亞諸國ガ相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力  
シテ、道義ニ差ク共存共榮ノ秩序ヲ大東亞ニ建設シ、以テ世界全般ノ  
平和ニ貢獻センコトハ、帝國ガ多年冀念シ來ツタ所デアルガ、米英ノ  
東亞制覇ノ野望ト東亞諸民族離間ノ陰謀トハ、之ガ實現ヲ阻害シ來ツ  
タノデアアル。帝國ハ、斯カル米英ノ野望ヲ破碎シ、自存自衛ヲ全クス

ル爲厥然戈ヲ執ツテ立ツニ至リ、爾來、大東亞諸國家諸民族ノ心カラ  
ナル協力ハ下、確固不動ノ決意ヲ以テ、戰爭ノ完遂ト大東亞ノ建設ト  
ニ邁進シテ來タノデアル。斯クテ、日滿華ノ關係ハ、日ニ月ニ緊密ノ  
度ヲ加ヘ、日「タイ」ノ親善關係ハ、更ニ一步ヲ進メ、新ニ「ビルマ」  
及「フィリピン」ハ獨立シ、米英的舊秩序ハ大東亞ヨリ排除セラレ大  
東亞ノ復興ハ着々ト進歩スルニ至ツタノデアル。此ノ間ニ於テ、中華  
民國ハ、本年初頭米英ニ對シ宣戰シ、能ク迄モ、帝國ト同生共死、共  
同戰爭完遂ノ決意ヲ固メタノデアルガ、此ノ秋ニ當リ、帝國ハ日華提  
携ノ根本精神ニ則ル兩國關係ノ劃期的發展ヲ期待シ、中華民國ノ自主  
獨立ト國民政府ノ政治力發揮トヲ根柢トスル、新中國ノ遠カナル建設

ヲ冀念シ、中華民國ニ於ケル一切ノ帝國專管租界ノ還付、上海共同租  
界廈門共同租界及北京公使館區域回收ノ承認、宿外法權ノ撤廢ヲ實施  
スル等各般ニ亘リ、有テユル好意的措置ヲナスコトヲ決意シ、爾來、  
之ヲ具現シ來ツタノデアル。之ニ呼應シ、中華民國ニ於テハ、愈々新  
中國ノ建設ヲ促進シ、戰爭協力ノ實ヲ擧ゲ、斯クシテ新シキ日華ノ關  
係ハ順調ニ進展シ、本日茲ニ日華基本條約ノ根本的改訂ヲ行ヒ、同盟  
條約ノ締結ヲ見ルニ至ツタノデアル。蓋シ、本同盟條約ハ大東亞ノ新  
事態ニ即應シ、日華本然ノ關係ヲ律スルモノデアツテ、日華兩國ノ永  
久友好ト、大東亞建設トノ崇高ナル共同使命達成ノ礎石タルモノデア  
リ、斯クノ如キハ、全ク帝國ノ正シキ戰爭目的ト必勝ノ信念トニ立脚

486

487

2382

シテ、始メテ行ヒ得ル所デアルト確信スルモノデア  
帝國ハ今後益々本條約ノ根本精神ニ則リ、新中國ノ建設ノ爲ニ有ラユ  
ル支援ヲ惜シマザルモノデアツテ日華兩國提携ヘテ大東亞戰爭ノ完遂  
ト、大東亞新秩序ノ建設トニ邁進センコトヲ期スル次第デア  
ル。

468

IMT 458

460

2382

改訂  
長

日華同盟條約ニ關スル宣傳要綱(案)

昭和一八一〇ニセ

第一、方針

日華同盟條約ノ締結ヲ期トシテ一月九日ノ對華新國策ニ關スル宣傳  
及指導方針第一、方針ノ強力ナル實施ヲ期シ、就中重慶ノ抗日名目ノ  
覆滅ヲ主目標トシ宣傳ヲ強化シ併セテ廣ク大東亞及世界ニ對シテ我  
方國策ノ道義ニ基ケル所以ヲ宣示ス

第二、要領

一、本同盟條約ノ締結ハ大東亞戰爭ノ進歩ニ呼應シ我方ノ所謂對支新  
國策ノ策定ヲ見ルニ至レル根本精神カ一層生成シテ茲ニ日華間ノ  
永久友好關係ヲ律スル基本的關係ヲ新ニ定ムルヲ得ルニ至レルモ

IMT 458

461

REEL No. A-1209

491

2382

五 第一條ニ則リ善隣友好及各般ニ亘ル互助敦睦ノ實ヲ舉クル爲帝國ノ施策ヘ今後一層強力ニ行ヘルヘキコトヲ強調シ中國民衆ノ帝國ニ對スル信頼ヲ一層高メシム

六 第二條ニ則リ日華、進ンテ大東亞ノ結集ヲ強調ス

七 第三條ニ則リ日華兩國ノ經濟提携ノ現在及將來ニ於ケル兩國ノ福利ヲ強調ス

八 附屬議定書第一條ニ則リ帝國ノ公正ナル態度ヲ闡明シ我方トシテハ特ニ大東亞諸國及印度ニ對シ本條ノ精神ヲ周知セシム

九 本同盟條約ヘ日支全面和平成立後、及大東亞戰爭完勝後ニ亘ツテ激ラサル日華基本關係ヲ律スルモノニシテ寧ロ此ノ時期ニ至ツテ愈々其ノ光彩ヲ發揮スルモノナルカサレヘトテ我方ヨリ日支全面

IMT 458

463

470

2382

ノニシテ從テ新事態ニ依リ不必要又ハ不適當トアリタル條項ヲ含ム日華基本條約ハ本同盟條約ニ置換ヘラルルモノナルコトヲ明ニス

二 大東亞戰爭ノ勃發ニ依リ本條約締結當時ノ事態變更シタル爲日華兩國ハ其ノ提携ヲ愈々緊密アラシメ以テ大東亞戰爭ノ完遂ト大東亞建設ニ寄與スル爲強力ナル同盟條約ヲ締結シタルモノナルコトヲ明ニス

三 本條約ノ條文ノ全證又ハ一部ヲ隨時類案ニ援用シテ廣ク其ノ根本精神ヲ理解セシム

四 條約前文ニ則リ本條約ノ精神及之カ達成ノ爲ノ日華兩國ノ決意ヲ強調ス

IMT 458

462

493

2382

華ノ關係ハ前途洋々タルモノナルヘキコト更ニ進シテ大東亞全域ニ於ケル帝國ノ地位ニ付瀾達ナル見識ヲ饒カシム

十三、今次條約改訂ハ條文ノ大亞細亞主義ノ趣旨ニモ副フモノナルコトヲ強調ス

十四、本宣傳ニハ中國側ノ積極的參加ヲ期ス

十五、本條約ノ道義性ヲ強調スルニ當リ之ト對比シ基本條約ノ非道義的ナルモノアリシカ如キ印象ヲ與ヘサル豫留意スルモノトス

十六、重慶政權ヲ罵詈セサルコトトス

十七、重慶ニ直接呼ヒカケサルコトトス

IMT 458

465

492

2382

和平ノ急速到來ヲ希求スル如キ印象ヲ與ヘサラン爲我方トシテハ重慶側抗戰名目ノ完全ニ消滅シタルヲ驚ラシムルニ止メ全面和平ニ關スル宣傳ハ專ラ國民政府ノ爲ス所ニ委セ我方ニ於テハ全然觸レサルモノトス

本年一月九日日華共同宣言及日華協定以來日華提携ノ實ハ懸々舉カリンツアリ中國ノ自主獨立ト國民政府ノ政治力充實トヲ根基トスル新中國ノ建設ハ益々顯著ナル現實ナルコトヲ強調ス

十二、中國民族ニ對シテハ交換公文第二項ニ則リ全般的平和克復前ノ經過的段階ニ於テモ民衆ノ福祉ヲ冀念シ我方新政策ノ根本精神ニ基キ所要ノ調整ヲ着々實現スヘキコトヲ強調ス

十三、邦人就中在支邦人ニ對シテハ要スレハ大東亞戰爭完遂ヲ見ハ日

IMT 458

464

(A70)

A700.9-41-2

- 一 戦争完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言
- 二 租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國  
中華民國間協定

條約集

第二十一輯  
第三卷

(645)

外務省條約局

昭和十八年一月九日編纂

REEL No. A-1209

0261

- 一 戦争完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言
- 二 租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定

目次

一 戦争完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言

昭和十八年(中華民國三十一年)一月九日南京ニ於テ  
 陸軍大臣 東條 英機  
 海軍大臣 嶋田 繁太郎  
 外務大臣 谷 正 之  
 大東亞大臣 青 木 一 男

朕權密顧問ノ諮詢ヲ經テ裁可シ昭和十八年一月九日南京ニ於テ帝國全權委員ガ中華民國全權委員ト共ニ署名調印シタル戦争完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ茲ニ公布セシム

御名 御璽

昭和十八年一月九日

内閣總理大臣兼  
 陸軍大臣 東 條 英 機  
 海軍大臣 嶋田 繁 太 郎  
 外務大臣 谷 正 之  
 大東亞大臣 青 木 一 男

戦争完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言





租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定

四

條約第二號

租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

本日調印ノ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ノ本旨ニ從ヒ

中華民國ノ主權尊重ノ趣旨ニ基キ左ノ通協定セリ

第一章 專管租界

第一條

日本國政府ハ現ニ日本國ガ中華民國ニ於テ有スル專管租界行政權ヲ中華民國政府ニ還付スベシ

第二條

兩國政府ハ夫々同數ノ委員ヲ任命シ前條ノ實施ニ關スル細目ヲ協議決定セシムベシ

第三條

中華民國政府ハ前二條ニ依ル租界還付實施後當該地域ニ於ケル施政ニ當リ日本國臣民ノ居住、營業及福祉等ニ關シ尠クモ從前ノ程度ヲ維持スベシ

第二章 共同租界及公使館區域

第四條

日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國政府ガ成ルベク速ニ上海共同租界行政權及廈門鼓浪嶼共同租界行政權ヲ回收スルコトヲ承認スベシ

第五條

日本國政府ハ中華民國政府ガ北京公使館區域行政權ヲ速ニ回收スルコトヲ承認スベシ

第三章 治外法權

第六條

日本國政府ハ現ニ日本國ガ中華民國ニ於テ有スル治外法權ヲ速ニ撤廢スルコトニ決シタルニ依リ兩國政府ハ右ニ關スル具體案ヲ審議作成セシムルノ目的ヲ以テ其ノ夫々任命スル同數ノ委員ヨリ成ル專門委員會ヲ設置スベシ

第七條

中華民國政府ハ日本國ノ治外法權ノ撤廢ニ伴ヒ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スベク且日本國臣民ニ對シテハ中華民國國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ與ヘザルモノトス  
前條ノ專門委員會ハ前項ニ關スル具體案ヲ併セテ考究スベシ

租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定

五

第八條

本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名關印セリ

昭和十八年一月九日即チ中華民國三十二年一月九日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 重 光 葵(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘(印)

日華同盟條約締結ニ關スル總理説明案

一、客年十二月二十一日  
 御決定ヲ得マシタル「大東亞  
 戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ハ日支提携ノ根本精神ニ則リ  
 專ラ國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ東慶抗日ノ根據名目ノ權  
 滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スヘキコト對支施策  
 ノ本體タルヘキヲ明示致シテ居ルノデアリマス。而シテ右根本方  
 針ニ於キマシテ既ニ之カ具現ノ一方策トシテ日華基本條約及附屬  
 諸取極改訂ノ件カ考慮セラレテ居ツタノデアリマス。當時條約ノ  
 改訂ヲモ考慮致シマシタル所以ヲ申述ヘマスルニ、大東亞戰爭發

大東亞省

生前ニ於キマシテハ帝國ヘ支那ニ於ケル米英ノ跳梁ヲ現存セシメ  
 ツツ事變處理ノ方途ヲ講セサルヲ得ナイ事情ニ置カレテ居リマシ  
 タ關係上之ニ對抗スル必要ト米英ト苟結スル支那抗日勢力ノ再燃  
 ニ對スル必要等ニ基キ帝國ノ對支要求ヘ必スシモ現下ノ新事態ニ  
 適合セサル點カ存シマシタコトハ已ムヲ待サリシ所ト存セララル  
 ノデアリマス。然ルニ大東亞戰爭發生後ニ於キマシテハ、帝國最  
 高ノ緊要事ハ對米英戰ノ勝利ニ存スルノデアリマシテ、支那トノ  
 關係ニ於キマシテハ出來得ル限り速ニ眞ニ日支一體トアリ戰爭完  
 遂ニ邁進スルノ態勢ヲ確立スルコトカ緊要デアルト考ヘラレルノ  
 テアリマス。之カ爲ニハ支那側ニ對シ今後ノ日支關係ニ付光明

大東亞省

ヲ與ヘ重慶抗日ノ根據名目ヲ擯滅スルコトカ必要テアルト存セラレマス。斯ル事情ニ鑑ミマシテ必スシモ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトアク適當ナル時機ニ條約ノ改訂ヲ考慮スルコトカ適當テアルト認メマシタル次第デアリマス。

二、更ニ本年五月三十一日 ~~閣議決定ヲ得マシタル~~「大東亞政略指導大綱」ニ於キマシテ「大東亞戰爭完遂ノ爲帝國ヲ中核トスル大東亞ノ諸國家諸民族結集ノ政略態勢ヲ更ニ整備強化シ戰爭ノ主導性ヲ堅持シ世界情勢ノ變遷ニ對スヘキコト並ニ政略態勢ノ整備ヘ帝國ニ對スル諸國家諸民族ノ戰爭協力ノ強化ヲ主眼トシ特ニ支那問題ノ解決ニ資スヘキコトヲ方針トシ、而シテ之カ具

大東亞省

現ノ爲ノ對華方策ト致シマシテ、「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル爲右ニ即應スル如ク日華基本條約ヲ改訂シ日華同盟條約ヲ締結スルコトトシ之カ爲速ニ諸準備ヲ整フヘキコトカ示サレテ居ルノデアリマス。即チ現下ノ戰爭指導上大東亞ノ諸國家諸民族ノ結集ヲ圖ルコトヘ極メテ必要ナル方策デアリマシテ、而シテ諸般ノ情勢ヨリシテ右政略態勢整備強化ヘ支那問題ノ解決ニ資スルノ方向ニ其ノ重點カ指向セラレル必要カアルノデアリマシテ、條約改訂ヘ即チ斯ル概略ニ立脚シ考慮セラレネヘアラヌモノト考フル次第デアリマス。

三、此度帝國政府カ同盟條約締結ヲ提議致シマシタ所以ノモノヘ敘上

大東亞省

ノ經緯及理由ニ基クモノテアリマシテ之ヲ要スルニ大東亞戰爭開  
始以來一變セル東亞ノ新情勢ニ即應シ對支處理根本方針ニ基キ日  
華提携ノ根本精神ニ則リ國民政府ノ政治力ヲ益々強化スルト共ニ  
車慶抗日ノ根據名目ノ徹底撲滅ヲ圖ツテ中國ニ於ケル全面和平ヲ  
促進シ以テ中華民國ト相携ヘテ大東亞戰爭ノ完遂ト大東亞ノ建設  
ニ邁進セントスルニ存スルモノテアリマシテ新條約ヘ即チ斯ル日  
華關係ノ最高目標ト右目標ヲ誠意ヲ以テ實現セシメントスル帝國  
政府ノ公正ナル態度ヲ最モ嚴肅ナル條約ノ形式ニ依リ公表セント  
スルモノテアリマス。斯ノ如キ帝國政府ノ大膽ナル方針ノ實行ヘ  
帝國ノ正シキ戰爭目的ト必勝ノ信念ニ立脚シテ始メテ行ヒ得ル所

大東亞省

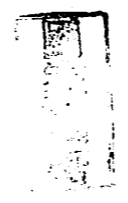
ト確信致ス次第テアリマス。  
以上同盟條約締結ノ理由ニ關シ申述ヘタ次第テアリマス。

大東亞省

A7009-91-2

(條一第一號)七部ノ内六  
昭和十八年六月二日

日華同盟條約案



外務省

(日本標準規格B5)

大日本帝國政府及  
中華民國國民政府ハ  
大東亞地域ニ於ケル各國ノ自主獨立ヲ尊重シ其ノ發展ヲ實現スルト  
共ニ各國緊密ニ協力シテ大東亞ニ於ケル安寧ヲ確保シ共同ノ建設ヲ  
行ヒ其ノ福祉ヲ増進シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ  
之ガ障礙タル一切ノ禍根ヲ茲除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通  
協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ其ノ相互ノ立場ヲ尊重シツツ大東亞戰爭進行ノ  
爲軍事上、政治上及經濟上有ラユル協力ヲ行フベク之ガ爲常時必要  
ナル協議ヲ行フベシ  
日本國及中華民國ハ必要ニ應ジ隨時別ニ業務上ノ取極ヲ行フコトア  
ルベシ

第二條

外務省

(日本標準規格B5)

REEL No. A-1209

軍事行動繼續中ハ陸海空ニ於テ日本國當該軍事官憲ノ必要トスル軍  
事的措置ハ中華民國ニ依リ許容セラルベク、右ニ關スル新ナル事項  
ニ付テハ豫メ兩國政府間ニ於テ相互ニ協議セラルベシ  
日本國ハ平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラ  
レタル日本國軍隊ヲ速ニ撤去スベキコトヲ約ス

第三條

必要ナル協力措置ニ付審議スル爲兩國政府代表者ハ大東亞地域各國  
政府代表者ト共ニ定期又ハ隨時ニ會合ヲ行フベシ

第四條

前條ニ規定スル會合ニ於テハ又戰後ニ於ケル大東亞各國ノ平等互惠  
ヲ趣旨トスル自主的發展竝ニ大東亞ニ於ケル平和安定ノ維持、防衛  
及共同ノ建設ニ關スル各般ノ事項ニ付協議行ハルベシ

第五條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ

外務省

CH 本標準規格 B5)

於テ署名調印セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ  
一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フモノトス

第六條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セララルベシ  
本條約ハ二十年間有效トス  
兩締約國ノ何レノ一方モ本條約ヲ終了セシムルノ意思ヲ右二十年ノ  
期間滿了ノ一年前ニ通告セザル場合ニハ本條約ハ兩締約國ノ何レカ  
ノ一方カ之ガ放棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル  
迄引續キ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名  
調印セリ

昭和十八年 月 日 日即チ中華民國三十二年 月 日

外務省

CH 本標準規格 B6)



極秘

日華同盟條約（草案）

昭和一八 六一〇

マイクタイター用複製用紙（石井稿）

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設シ以テ東亞ノ興隆ト安寧トヲ確  
保シ進ンテ世界全般ノ公正ナル平和ト發展トニ貢獻センコトヲ期シ  
且之カ障礙タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協  
定セリ

第一條

兩國ハ道義ヲ以テ兩國間交ノ基調トナシ相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重  
シツツ兩國ノ悠久ナル發展ニ寄與スヘキ新ナル秩序ヲ東亞ニ建設ス  
ル爲相互ニ政治上、經濟上及軍事上緊密ナル協力ヲ行フヘシ

第二條

大東亞省

東東1730 (日本標準規格 B 5)

東シ歐ノニ世界全  
 東亞ニ於テ重義ニ基  
 中華共團團員均稱ハ  
 大日本帝國均稱ハ  
 日華同盟

兩國ハ相互ニ其ノ經濟的條件ニ應シ相携ヘテ綜合的經濟力ヲ強化シ  
 蓋イテ一般民生ノ向上ニ資スル爲互勵互進ノ趣旨ニ基テ相互ニ緊密  
 ナル經濟上ノ協力ヲ行フヘシ  
 之カ爲重要資源ノ開發及供給、其ノ他一般通商交易ノ振興ニ付相互  
 ニ有效ナル援助ト特別ノ便宜ヲ與フヘク且經濟政策ノ遂行ニ付相互  
 ニ緊密ナル連絡ヲ保持スヘシ

第五條  
 兩國ハ其ノ安全又ハ重大ナル利益ヲ危殆ナラシメ或ハ大東亞ニ於ケ  
 ル新秩序ノ建設維持ヲ妨害スヘキ一切ノ脅威及侵略ニ對シテハ兩國  
 共同シテ之ヲ防衛又ハ排除ニ任スヘク之カ爲必要ナル一切ノ措置ニ  
 關シ完全ナル協力ヲ爲スヘシ

第四條

大東亞省

東亞1736(日本標準規格 B 5)

REEL No. A-1209





31

的目録ヲ闡明シ米英關係ニ重慶ノ戰爭名目ノ覆滅ヲ圖ルト共ニ支那ノ東亞諸民族ノ帝國ニ對スル信賴感及積極的協力ノ増大ヲ期スモノトス

ニ要領

(一) 改訂條約ハ左ノ事項ヲ内容トス

(1) 道義ヲ基礎トスル善隣友好關係ノ確立並ニ兩國ノ悠久ナル存立發展ノ爲ノ相互的協力

(2) 兩國又ハ東亞共榮圈ノ存立安全カ脅威又ハ侵害ヲ受クル場合之カ排除防衛ニ關スル協力殊ニ大東亞戰爭完遂ノ爲ノ一體の協力關係(同盟)

大東亞省

(京東1730)(日本標準規格 B 5)

(8) 東亞新秩序建設ニ關スル緊密協力關係

(一) 昭和十五年十一月三十日ノ日華基本條約及附屬諸取極ニ定メザレタル諸事項ニシテ右(一)ニ明記セラレサルモノハ左ノ通り措置スルモノトス

(1) 防共駐屯、治安駐屯及艦隊ノ駐留ニ關シテハ戰爭繼續中ニ於テ改訂條約前ニ昭和十八年一月九日「戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言」ニ基ク軍事的協力事項トシテ措置スルト共ニ戰後ニ付テハ右(一)(2)ノ問題トシテ戰後具體的ニ日華間ニ協議決定スルモノトシ此旨議事録ニ記録シ置クモノトス

大東亞省

(京東1730)(日本標準規格 B 5)

帝國トシテハ戰後ニ於テモ特定地域ニ駐兵駐留ノ必要アルヘキコトヲ認見ス

(2) 經濟協力ニ關スル諸事項ハ改訂條約ニ基ク經濟協力事項トシテ具體的ニ處理セラルルモノトシテ所要ニ應ジ條約ノ實施事項トシテ別個ニ技術的、具體的協定取極ヲナスモノトス

(3) 賠償金ハ之ヲ撤回スルモノトス

(4) 諸地域ノ特殊性ニ關シテハ左ノ通り措置ス

(A) 蒙疆ノ特殊性ハ之ヲ存続セシムルモノトシ、基本條約トハ別個ニ秘密協定又ハ交換公文ヲ以テ明定スルト共ニ國民政府自治ノ内部事項トシテ自主的ニ蒙疆ノ高度自治性ヲ確保

大東亞省

大東亞省(日本標準規格 1730)

セシムル如ク措置ス

(B) 華北ノ特殊性ニ關シテハ今後漸次之カ調整解消ヲ計ルコト

トスルモ急激ナル變動ヲ與ヘサル様充分注意セシムルコトトシ此旨議事録ニ記録シ置クモノトス

(C) 揚子江下流地域ノ特殊性ハ實際上ノ問題トシテ措置スルコト

トトシ何等協定又ハ取極ヲナササルモノトス

(D) 厦門地區ノ特殊性ニ關シテハ適宜ノ調整ニ依ルモノトス

(E) 海南島ノ特殊性ニ關シテハ(A)ト同様戰爭繼續中ハ現状通りトシ(但具體的ニ所要ノ調整ヲ加フルモノトス)戰爭完遂後ニ付テハ(1)ノ(2)ノ問題トシテ日華間ニ具體的ニ協議決定

大東亞省

大東亞省(日本標準規格 1730)

タイプライター用複写用半紙（石井誌）

スルモノトシ。此旨議事録ニ記録シ置クモノトス

帝國トシテハ戦後ニ於テモ海南島ヲ軍事の基地トシテ何等  
 カノ形ニ於テ之カ使用確保ノ要アルヘキコトヲ認見ス

（四）軍事及技術顧問ニ關シテハ協力事項ノ一トシテ處理セラル  
 ヘキ事項ナルモ要スレハ條約ノ實施トシテノ取極ヲナスモ  
 ノトス

（五）共同防共ニ關シテハ（一）ノ（二）ニ一應包含セラルルモノトシ諸  
 般ノ考慮ヨリ特ニ明文化セサルモノトス

（三）改訂ノ時期ハ本年八月末迄ヲ目標トシ遅クトモ基本條約ノ調印  
 日タル十一月三十日迄ニハ實行スルモノトス

大東亞省

（東京1730）（日本標準規格 B 5）

タイプライター用複写用半紙（石井誌）

（四）改訂ニ際シテハ日華兩政府ノ共同聲明ヲナスト共ニ所有宣傳  
 啓發ニ依リ其意義ヲ徹底セシムルモノトス

大東亞省

（東京1730）（日本標準規格 B 5）

REEL No. A-1209

秘

(昭一八七一一五 總條)

日本國中華民國間友好同盟條約(案)

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

相互ニ其本然ノ特質ヲ尊重シ道義ヲ基調トスル兩國ノ悠久ナル存立  
及發展ニ一體協力スヘキ確乎不動ノ友好連帶關係ニ依リ鞏固ニ結合  
セラルルモノナルコトヲ確認シ

大東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ確立シ惹テ世界全般ノ公正ナル新  
秩序ノ招來ニ貢獻センコトヲ期シ

大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞建設ノ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ

大東亞省

昭一八七一一五 日本標準規格 B 5

確乎不拔ノ決意ヲ以テ左ノ通り協定セリ

第一條

兩國政府ハ大東亞戰爭完遂ノ爲軍事上、政治上及經濟上完全ナル協  
力ヲ爲スヘシ

第二條

兩國政府ハ道義ヲ基調トスル善隣友好關係ヲ維持シ兩國ノ公正ニシ  
テ悠久ナル存立及發展ヲ期スル爲相互ニ其獨立ヲ尊重シツツ政治、  
經濟、文化等各般ニ互リ緊密ナル協力ヲ爲スヘシ

第三條

兩國政府ハ大東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設シ大東亞ノ興隆ト

大東亞省

昭一八七一一五 日本標準規格 B 5

REEL No. A-1209

アジア歴史資料センター



安寧トヲ確保スル爲其特質ニ應シ有ラユルカヲ盡シ相協力シ以テ其  
完成ニ邁進スヘシ  
之カ爲必要ナル事項ニ付隔意ナキ協議ヲ行フ爲關係各國ト共ニ定期  
又ハ隨時ニ會議ヲ開クヘシ

第四條

兩國政府ハ大東亞戰爭完遂後ニ於テモ兩國ノ存立又ハ重大利益ヲ危  
殆ナラシメ或ハ大東亞ニ於ケル新秩序ノ維持發展ヲ妨害スヘキ一切  
ノ脅威又ハ侵害ニ對シ一體的協力ヲ以テ其排除ニ當ル可キコトヲ約  
ス

第五條

大東亞省

本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル具體的事項ニ關シテハ所要ニ應  
ジ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルヘシ

第六條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ  
於テ署名調印セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ  
一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ其ノ効力ヲ失フモノトス

第七條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名

大東亞省

調印セリ

昭和 年 月 日 即 中華民國 年 月 日 二 於 日

本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作製ス

タイプライター用複写用半紙（石井結）

大東亞省

（昭和1730）日本標準規格 JIS

REEL No. A-1209

0280

アジア歴史資料センター

2  
第

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約(案)

(昭一八七一五總・總)

※、フライター用紙(百井紙)

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

相互ニ其本然ノ特質ヲ尊重シ一致セル世界觀及緊密ナル友好連帶關係ニ依リ鞏固ニ結合セララルモノナルコトヲ確認シ

大東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ確立シ蓋テ世界全般ノ公正ナル新秩序ノ招來ニ真誠センコトヲ期シ

之カ障害タル一切ノ禍根ヲ排除スルノ確乎不致ノ決意ヲ以テ左ノ通り協定セリ

第一條

兩國政府ハ道義ヲ基調トスル善隣友好關係ヲ維持シ、兩國ノ悠久ナ

大東亞省

東東1730) (日本標準規格 B 5)

大東亞ニ於テ  
諸國ニ對シテ  
協同ニ努ムル  
所ニ在リ  
日本國中  
華民國  
大日本帝國  
中華民國  
大日本帝國

タイプライター用複写用半紙(64枚)

ル存立發展ヲ期スル爲相互ニ其獨立ヲ尊重シツツ政治、經濟、文化  
等各般ニ互リ互助共榮ノ精神ヲ以テ緊密ナル協力ヲ爲スヘシ

第二條

兩國政府ハ大東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設シ大東亞ノ興隆ト  
安寧ヲ確保スヘキ共同ノ使命ト責務ヲ達成スル爲其特質ニ即應セル  
有ユル協力ヲナスヘシ

之カ爲必要ナル事項ニ付備意ナキ協議ヲ行フ爲關係各國ト共ニ定期  
又ハ隨時ニ會議ヲ開クヘシ

第三條

兩國政府ハ兩國ノ存立安全又ハ大東亞ニ於ケル新秩序ノ維持安寧ニ  
對スル一切ノ脅威又ハ侵害ニ對シ共同シテ其防衛排除ニ當ルヘキコ  
トヲ約ス

大東亞省

東東1733) (日本領事規程 B 5)

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ署名調印セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ其效力ヲ失フモノトス

第五條

本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル具體的事項ニ關シテハ所要ニ應ジ兩國當該官憲間ニ協議決定セララルヘシ

第六條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ署名調印セラレタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約實施ノ日ヨリ其效力ヲ失フモノトス

第七條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セララルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

大東亞省

東京(730) (日本標準規格 B 5)



極秘

大日本帝國政府

日支同盟條約締結要綱案 (陸海軍主務者會同研究案)

昭和一八 七 二八

第一、方針

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル爲  
右ニ即應スル如ク日支基本條約及同附屬協定ヲ改訂シ日支同盟條  
約ヲ締結ス

第二、要領

其ノ一 全般關係事項

一、改訂ノ要旨

1、兩國ハ日滿華共同宣言ノ趣旨ニ基キ大東亞新秩序建設ノ

大日本帝國政府

共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ提携スルコトヲ明示シ

大東亞共榮圈內ニ於ケル兩國永遠ノ共榮友好ノ關係ヲ律ス

2、兩國ハ日華共同宣言ノ趣旨ニ基キ大東亞戰爭完遂ノ爲政

治上軍事上及經濟上完全ナル協力ヲナス如ク律ス

三、改訂ノ時機

内外ノ情勢ニ基キ成ルヘク速カニ改訂スルモノトシ概ネ九月

初旬ト豫定ス

改訂前國民政府ノ意向ヲ聽取シ日本カ一方的ニ強制セサル如

ク配慮ス

其ノ二 軍事關係事項

大日本帝國政府

一、駐兵權

華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯（基本條約第三條）、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯（基本條約第四條）竝ニ艦船部隊ノ駐留（基本條約第五條、附屬祕密協約第一條）ハ之ヲ廢止ス

戰後ニ於ケル大東亞防衛上ノ帝國ノ對支要請ニ關シテハ日華共同建設（防衛）ノ原則ニ據リ適時將來之ヲ律スルモノトシ  
本次改訂ニ當リ規定セサルモノトス

二、撤兵

大東亞戰爭終了後ハ即時撤兵ヲ斷行スルコトヲ明示ス重慶側

大日本帝國政府

トノ全般的平和克復後モ右ニ準スルモノトス

三、駐兵間ノ軍事要求權ト便宜供與

戰爭間ノ兩國ノ完全協力ヲ律スルコトニヨリ駐兵間ノ鐵道、航空通信主要港灣及水路等ニ關スル軍事上ノ必要ニ基ク要求權及駐屯ニ必要ナル便宜供與ニ關シテハ當然受ケ得ルヲ以テ特ニ規約セサルモノトス之カ爲附屬議定書第一條、附屬祕密協定第二條及祕密交換公文第二ノ二ノ甲、第三ノ五ヲ廢止ス

四、軍事顧問

中國側ノ要請ニ基キ派遣スルコトトシ特ニ條約ニ於テ律セサルモノトス



大日本帝國政府

其ノ三 各地特殊性ノ調整改廢

一、軍事上ノ合作經濟上ノ提携上特殊地帶トシテ制約シアリタル  
蒙疆、華北、揚子江下流地域及華南沿岸島嶼ニ關スル條項ハ  
之ヲ廢止シ各地域別ニ約定スルコトナシ

二、大東亞戰爭間ノ對日協力ニ關シテハ現狀ヲ維持シ戰爭完遂ニ  
資スル如ク配慮ス

三、蒙古民族ニ對シテハ廣汎ナル自治ヲ認メ諸民族結集ニ關スル  
帝國ノ要請ニ應セシムルモノトス

其ノ四 經濟關係事項

平等互惠ノ原則ニ依リ經濟ノ提携ヲ行フモノトシ重要國防資源

大日本帝國政府

ノ開發利用ニ關シテハ將來ニ亘リ帝國ニ寄與スル如ク律スルモ  
ノトス

但シ大東亞戰爭間ノ對日寄與ハ確保スルモノトシ急激ナル變革  
ヲ行ハサルモノトス

以上

大日本帝國政府

日支同盟條約締結要綱案 (陸海軍主務者會同研究案)

昭和十八 七 二八

第一、方針

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル爲  
右ニ即應スル如ク日支基本條約及同附屬協定ヲ改訂シ日支同盟條  
約ヲ締結ス

第二、要領

其ノ一 全般關係事項

一、改訂ノ要旨

1、兩國ハ日滿華共同宣言ノ趣旨ニ基キ大東亞新秩序建設ノ

大日本帝國政府

共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ提携スルコトヲ明示シ  
大東亞共榮圈内ニ於ケル兩國永遠ノ共榮友好ノ關係ヲ律ス  
2、兩國ハ日華共同宣言ノ趣旨ニ基キ大東亞戰爭完遂ノ爲政  
治上軍事上及經濟上完全ナル協力ヲナス如ク律ス

二、改訂ノ時機

内外ノ情勢ニ基キ成ルヘク速カニ改訂スルモノトシ概テ九月  
初旬ト豫定ス

改訂前國民政府ノ意向ヲ聽取シ日本カ一方的ニ強制セザル如  
ク配慮ス

其ノ二 軍事關係事項

大日本帝國政府

一、駐兵權

華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯（基本條約第三條）、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯（基本條約第四條）並ニ艦船部隊ノ駐留（基本條約第五條、附屬祕密協約第一條）ハ之ヲ廢止ス

戰後ニ於ケル大東亞防衛上ノ帝國ノ對支要請ニ關シテハ日華共同建設（防衛）ノ原則ニ據リ適時將來之ヲ律スルモノトシ、本次改訂ニ當リ規定セサルモノトス

二、撤兵

大東亞戰爭終了後ハ即時撤兵ヲ斷行スルコトヲ明示ス重慶側

大日本帝國政府

トノ全般の平和克復後モ右ニ準スルモノトス

三、駐兵間ノ軍事要求權ト便宜供與

戰爭間ノ兩國ノ完全協力ヲ律スルコトニヨリ駐兵間ノ鐵道、航空通信主要港灣及水路等ニ關スル軍事上ノ必要ニ基ク要求權及駐屯ニ必要ナル便宜供與ニ關シテハ當然受ケ得ルヲ以テ特ニ規約セサルモノトス之カ爲附屬議定書第一條、附屬祕密協定第二條及祕密交換公文第二ノ二ノ中、第三ノ五ヲ廢止ス

四、軍事顧問

中國側ノ要請ニ基キ派遣スルコトトシ特ニ條約ニ於テ律セサルモノトス

大日本帝國政府

其ノ三 各地特殊性ノ調整改廢

一、軍事上ノ合作經濟上ノ提携上特殊地帯トシテ制約シアリタル  
家體、華北、揚子江下流地域及華南沿岸島嶼ニ關スル條項ハ  
之ヲ廢止シ各地域別ニ約定スルコトナシ

二、大東亞戰爭間ノ對日協力ニ關シテハ現狀ヲ維持シ戰爭完遂ニ  
資スル如ク配慮ス

三、蒙古民族ニ對シテハ廣汎ナル自治ヲ認メ諸民族結集ニ關スル  
帝國ノ要請ニ應セシムルモノトス

其ノ四 經濟關係事項

平等互惠ノ原則ニ依リ經濟ノ提携ヲ行フモノトシ重要國防資源

大日本帝國政府

ノ開發利用ニ關シテハ將來ニ亘リ帝國ニ奇與スル如ク律スルモ  
ノトス

但シ大東亞戰爭間ノ對日奇與ハ確保スルモノトシ急激ナル變革  
ヲ行ハサルモノトス

以上

秘

日華友好同盟條約締結要綱案

昭和十八年八月二十三日

一、改訂ノ目標

大東亞戰爭勃發後ニ於ケル新事態ニ鑑ミ對支處理根本方針ノ徹底的具現ヲ圖リ以テ全中國ノ結果ヲ促進シ支那問題ノ解決ニ資スルヲ目標トス

二、新條約ト戰後宿直

新條約ノ主タル狙ヒカ戰爭完遂ノ爲必要ナル政治的効果ノ招來ニ存スト雖モ大東亞ノ共同ノ建設及防衛ノ爲兩國ノ行フヘキ或種協力ノ具體的方法ニ關シテハ戰後別途兩國間ニ協議セラルヘキモノナルコトヲ豫期シ新條約ニ右素地ヲ伴シ直ク如ク配慮ス

三、既存ノ日華間條約宣言其ノ他ノ諸取極ノ取扱

日滿華共同宣言及日華共同宣言ハ夫々右發出ノ本旨ニ照シ之ヲ存置ス日華基本條約及其ノ附屬ノ諸取極ハ新條約ノ締結ニ伴ヒ之ヲ

廢止ス

四、條約ノ形式

新條約ハ友好同盟條約及所妥ノ附屬文書ヲ以テ構成ス

五、條約改訂ノ時機

條約改訂ノ日本側ニ於ケル準備ハ九月十五日迄ニ之ヲ完了スルコトヲ目途トシ爾後他ノ政略トモ配合セ政機ヲ捉ヘ改訂ヲ實施ス

六、軍事關係事項ノ處理

(一) 駐兵權

(1) 防共、治安、慣例等ニ基ク駐兵權ハ一切之ヲ要求セス從テ華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯（基本條約第三條）、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯（基本條約第四條）並ニ艦船部隊ノ駐留（基本條約第五條、附屬秘密協約第一條）ハ之ヲ廢止ス

(2) 戰後ニ於ケル大東亞防衛上必要ナル兩國ノ孰ルヘキ協力ノ具